

炉端の会の園外研修は、園内古民家のふるさとを訪ねるという名目で、平成17年から毎年実施された。第5回目までで、近場の日帰りバスツアーで行けるところは行ってしまった。その頃、園外研修は会の日常活動以外では最大の行事であった。

平成22年度の園外研修をどうするか、前年からアンケート調査を企画し行った。古民家のふるさとを訪ねるという趣旨を続けて遠隔地でも泊りがけで行くのか、5年間で新しい会員も増えたので、無理をしないで近くの日帰りで行けるところを再訪するか、はたまた、園内古民家に拘わらず他の適当な研修地を探すのか、会員の意向を伺った。

調査の結果は、行きたい古民家希望順位は、①旧三澤家、②旧鈴木家・旧北村家であった。また、一泊二日になった場合の参加希望者は、参加したいが71.6%、不参加は21.6%だった。気になっていた女性の参加希望は76.9%と多かった。

平成22年4月から園長は木下さんが昇任し、新人の畑山さんが担当となった。また、会の役員も入れ替わり、会員は237名に増えた。

4月の班長会で、行き先を福島県の旧鈴木家に決めた。では宿泊所をどこにするか。参加者の数を確かにして予約しなければならない。会員は中高年者が多い、修学旅行のような雑魚寝は無理だろうから、個室のバス・トイレ付きとすると、費用は高くなるがシティホテルを探した。6月の参加予定者調べで88名と分かり、ホテルはやむなく2カ所になる。個室値段は6,300～6,500円であり、バスチャーター代、昼の弁当代及び夕食代等込みで一人当たり2万円弱でできそうだった。日帰りの場合の5千円より大幅に上がる。なお、バスツアーのため、バスが1台か2台かで費用が大きく変わることになるから、参加者の変動が無いことを祈った。宿やバスの手配などは、成島(火曜班)さんの活躍による。

当日、11月11日は晴れた。ほぼ予定どおりバスは北へ進んだ。参加者80名は皆、小学生のように心はずませていた。福島に入ったら12～13℃と寒く、少し曇まじりだったが、旧八丁目宿では回復し、鈴木さん宅へは宿場道を少し歩いてから訪ねた。

当主の長太郎さん、母上のシゲさん、奥さんらが出迎えてくれ、庭先での明快でおおらかな話は、何だか、こちらが励まされているようだった。はるばる来た甲斐があった。

いよいよ宿泊地の会津若松市へ、夕食は郷土料理を別会場とって、ホテルは2館に別れた。安いビジネスホテルに泊まったことが無い人もいたので、まちがいが起こらないか初めから気になっていた。だが、会員は皆大人である、案ずることはなかった。次の日も好天に恵まれ、一泊二日の園外研修は無事終えた。

ただ、その4カ月後、平成23年3月11日、3月例会の日、東日本大震災が起こった。福島県は原発事故が重なって痛ましいことになってしまった。

(平成26年12月)